

六人
萬題發句集



かきむね
あつらひ
あつらひ

1
④

萬題叢句集夏之部

英地輯

胃

胃 へんきん 四月れり如小 瘧文
伐於の相お芽吐き 四月か 玉不
色とやに 四月のうらやま 一出
留のほよききき ぬるさ 蒼字
葉際ふ芽吐く 木阿のぬるさ 李瞻
物くふと 四月の 四月小 柏葉
物くふと 四月の 四月小 柏葉

更衣

更衣 小きもつれき へんきん 文 衣 高
襦き へんきん へんきん 文 衣 涼
日とくたふ 袖む 大 巾 更 衣 たよ
花 掃 巾 巾 巾 巾 巾 巾 巾 巾
履 巾 巾 巾 巾 巾 巾 巾 巾
へんきん へんきん へんきん へんきん
へんきん へんきん へんきん へんきん
へんきん へんきん へんきん へんきん
へんきん へんきん へんきん へんきん
へんきん へんきん へんきん へんきん

拾

拾遺集 卷之五 雜詩
 新風多事 月小星明 拾遺集 卷之五 雜詩
 是夕 天香 花開 拾遺集 卷之五 雜詩
 柳柳 芳才 生之 出之 拾遺集 卷之五 雜詩
 海 風 人 之 佛 氣 之 香 子 拾遺集 卷之五 雜詩
 智 如 之 之 之 之 之 之 拾遺集 卷之五 雜詩
 花 之 之 之 之 之 之 拾遺集 卷之五 雜詩
 是 夕 之 之 之 之 之 之 拾遺集 卷之五 雜詩
 子 之 之 之 之 之 之 拾遺集 卷之五 雜詩

短夜

短夜 拾遺集 卷之五 雜詩
 子 之 之 之 之 之 之 拾遺集 卷之五 雜詩
 新 風 多 事 月 小 星 明 拾遺集 卷之五 雜詩
 是 夕 天 香 花 開 拾遺集 卷之五 雜詩
 柳 柳 芳 才 生 之 出 之 拾遺集 卷之五 雜詩
 海 風 人 之 佛 氣 之 香 子 拾遺集 卷之五 雜詩
 智 如 之 之 之 之 之 之 拾遺集 卷之五 雜詩
 花 之 之 之 之 之 之 拾遺集 卷之五 雜詩
 是 夕 之 之 之 之 之 之 拾遺集 卷之五 雜詩
 子 之 之 之 之 之 之 拾遺集 卷之五 雜詩

西月やそつらぬまのそつら 鳥 菴 晁
 片のちや月もいとそつらなる 琴之
 程もわかれぬあやせりし心 西 坡
 ぬもよぶあつらふもつかれ 曲 阜
 ちりやとぬのふにけやもぬ 杜 翁
 ぬもよぶあつらふもつかれ 素 辰
 ぬもよぶあつらふもつかれ 燕 池
 ぬもよぶあつらふもつかれ 可 撫
 ぬもよぶあつらふもつかれ 菴 宇
 ぬもよぶあつらふもつかれ 梅 先

責

佛 齋

於まあまつしはなぬふ仙のれ 仙 年
 吹くそつらぬるやあまの佛 子 回
 春とそつらぬるや 仙 生 七
 福のあつらふもつかれ 蘇 七
 ちりやとぬのふにけやもぬ 杜 翁
 ぬもよぶあつらふもつかれ 素 辰
 ぬもよぶあつらふもつかれ 燕 池
 ぬもよぶあつらふもつかれ 可 撫
 ぬもよぶあつらふもつかれ 菴 宇
 ぬもよぶあつらふもつかれ 梅 先

笈 書

ちりやとぬのふにけやもぬ 蘇 七
 ぬもよぶあつらふもつかれ 燕 池
 ぬもよぶあつらふもつかれ 可 撫
 ぬもよぶあつらふもつかれ 菴 宇
 ぬもよぶあつらふもつかれ 梅 先

鮎

あさしーやうの時中を待たぬ
あさしーやうの時中を待たぬ

あさしーやうの時中を待たぬ
あさしーやうの時中を待たぬ

あさしーやうの時中を待たぬ
あさしーやうの時中を待たぬ

あさしーやうの時中を待たぬ
あさしーやうの時中を待たぬ

あさしーやうの時中を待たぬ
あさしーやうの時中を待たぬ

穂妻

あさしーやうの時中を待たぬ
あさしーやうの時中を待たぬ

牡丹

あさしーやうの時中を待たぬ
あさしーやうの時中を待たぬ

あさしーやうの時中を待たぬ
あさしーやうの時中を待たぬ

芍薬

芍薬の花を譲りて憐れ牡丹の
 花よりも人の心を驚かす
 夕陽の中牡丹の花は
 息つた心をよそへて
 白く咲き出せば
 芍薬の花もさきつる
 芍薬の花は
 芍薬の花は
 やくやくと
 芍薬の花は

未
 狂
 可
 猶
 三
 夜
 為
 法
 夾
 桃

杜若

杜若の花は
 影のふらふら
 花をよそへて
 花よりも人の心を
 夕陽の中牡丹の花は
 息つた心をよそへて
 白く咲き出せば
 芍薬の花もさきつる
 芍薬の花は
 やくやくと
 芍薬の花は

曲
 雲
 東
 樽
 夾
 静
 輪
 可
 其
 其

盟栗

蕙 樓 王 女 子 亦 不 吟 中 其 多
 志 持 心 瓦 季 八 月 一 日 在 其
 人の 命 之 命 令 せ ば 命 令 せ ば
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 笑 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 お 乃 一 日 と 命 令 せ ば 命 令 せ ば
 千 年 不 滅 け ば 命 令 せ ば 命 令 せ ば
 陰 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 陽 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 此 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ

芽 産 乙 雅 冢 亮 法 手 悉 地 一 法 去 乙 柳 系 松 隣

百合

ふらふらの ゆき あらわやうし せを
 花 あけ ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ
 花 乃 咲 け ば 春 乃 来 じ け ば 春 乃 来 じ

尺 柳 法 年 李 蟻 皆 江 木 露 小 穂 不 翠 天

（用口）

卯花

くわもやわらわくゆるねれりる 卯花
おのをはは候てはあうのうら 三

大隅

卯乃ももまれば大なるの程 桂李
村ももらおをぬの花ふかたの心 芳金
くねもやまぬうらぬねぬ 杜若
ぬのもやゆきまふま定三信重 たよ
卯乃ももまれば大なるの程 高海
くのもやゆきまふま定三信重 高海
ぬのもやゆきまふま定三信重 班休

美葉

くのかははあされのやゆき 磯足
おはまるとまをハくあうの所 古鏡
卯のともやゆきまふま定三信重 然地
まふまあふまのやゆきま 高海
是代、一投 高海、高海、高海 綾川
美葉、くはあはあふまの心 笑白

葉は京

ははあふまのやゆきま 松崎
魚はくまもはあふまの心 一
あふま、くはあはあふまの心 樽水

うねくうのひみのはつさるまふ
 ちよんもさるまふし松殺うき
 鹿り揚やまふまふくくもし
 さるまふくくもまふまふ
 而松地

喜龍軒

ちよんまふまふくくもまふまふ
 柳のまふまふくくもまふまふ
 さるまふくくもまふまふ
 吹ちよんまふまふまふまふ
 ちよんまふまふくくもまふまふ
 地

茂

ちよんまふまふくくもまふまふ
 さるまふくくもまふまふ
 柳のまふまふくくもまふまふ
 さるまふくくもまふまふ
 吹ちよんまふまふまふまふ
 ちよんまふまふくくもまふまふ
 地

あはれゆき一陽苗 清
おのれ川や流るぬおふくれ 苗 九 丸

三年

折苗やそくしとあふさ 二三の 然 地

投りたあふくえゆる子 苗山 答 露

おふ子のやまふかくら田う那 了 女

つくくと女の遠かる 吉 田う那 然 地

町高きるもふとる人さう那 中 折

おふくし子方ころあけとあふ 有 山

ほやふとく揚ちやあふとるたす 花 山

時鳥

青田

ふとくまふ言ふもり後ハくならす 世 年

時鳥さくはくハちふふふの 境 山

子親路のそりあふとあふく 梅 笠

ほみらるおふとあふく 如 園

さけふふおのりあふく 郭 公

海なるくまふおふとあふく 嘉 り

おふとあふくおのりあふく 晴 山

おふとあふくおのりあふく 梅 山

おふとあふくおのりあふく 然 地

おふとあふくおのりあふく 然 地

一六〇

いさち〜時 冬 下

た〜月〜お〜

〜
梅

〜

〜
元

深古鳥

〜
三

〜
作

老鶯

〜
梅

雨

〜
冬

初鯉

〜
冬

〜
冬

〜
冬

〜
冬

〜
冬

鶉飼

〜
冬

鮎

舞文にほそをわらへや 舞のいよふ
喜 喜 喜 子 子 子

月の夜あふさけや 極き
知こやと 鮎きふ あらぬ一取す
喜 湖 且

船

うとくしき 柳とありて 船乃味 市耕

片藻

きいこや 魚のきいふや ちり 築 鳥心ぬ

水鶏

あしあをとりはちや ちり 水鶏 水 鳥心ぬ
鳥けハおろちや ちり 水鶏 水 鳥心ぬ

やちりせし

いよくと ちりいのちり 水鶏 柳 柳 鳥心ぬ

能くやすけとひらの 水鶏 ちり 鳥心ぬ

宵はふありとちり 水鶏 水鶏 鳥心ぬ

枝

意とちり 水鶏 水鶏 鳥心ぬ

はりく ちりい 水鶏 水鶏 鳥心ぬ

ちりい ちりい 水鶏 水鶏 鳥心ぬ

枝好ふ

能くやすけとひらの 水鶏 水鶏 鳥心ぬ

蟬

能くやすけとひらの 水鶏 水鶏 鳥心ぬ

能くやすけとひらの 水鶏 水鶏 鳥心ぬ

能くやすけとひらの 水鶏 水鶏 鳥心ぬ

仙舟

行子

今ハまくるるをあふしむかのたわ
さみるや たまは 鶴ハ 鶴とも 折ると
たさ一 色もありの隙のくもも
風のそよ 隙のたわ 柳 くのた
本考し の新しきわ 千のたわ
ひさハ 息をくわう 隙のたわ
ひさるハ 息も けあり けく子 雲 行
ささるや 息も けハ 息も ささる 然 地
おの 石のゆえ けと けく子 文 記
草や 花も けと けく子 柳 傷

紫陽花

茨花

菖菊

竹の子や 兵一平の くはくうい 羨 尾
草や 本名の 玉まうれ ゆと お 十 下 上
白紙や 竹の子を けふ けく 五 五 折 程
草のよ 下いとも 草花ハ 穴の向く た 下
おまふや けく 草の けく 草 草
草のよ 草の けく 草の 草 草
けく けく けく けく けく けく けく けく
た 下 下 下 下 下 下 下 下
た 下 下 下 下 下 下 下 下
た 下 下 下 下 下 下 下 下
た 下 下 下 下 下 下 下 下
た 下 下 下 下 下 下 下 下
た 下 下 下 下 下 下 下 下

一
二

一
二

まきくやひらくまを海乃 玉 露 線
まきくやひらくまを海乃 玉 露 線
まきくやひらくまを海乃 玉 露 線

栞花

栞のむちのほきも けふも けふも
栞のむちのほきも けふも けふも

桐花

桐のむちのほきも けふも けふも
桐のむちのほきも けふも けふも

香花

香のむちのほきも けふも けふも
香のむちのほきも けふも けふも

音芦

音のむちのほきも けふも けふも
音のむちのほきも けふも けふも

百合

百のむちのほきも けふも けふも
百のむちのほきも けふも けふも

花柚

花のむちのほきも けふも けふも
花のむちのほきも けふも けふも

一八

一八のむちのほきも けふも けふも
一八のむちのほきも けふも けふも

著義

著のむちのほきも けふも けふも
著のむちのほきも けふも けふも

花葉

花のむちのほきも けふも けふも
花のむちのほきも けふも けふも

其十五

其十五のむちのほきも けふも けふも
其十五のむちのほきも けふも けふも

六月 六月や起やほろこ此能くしき 祖
ふも此や夕も阿のハあふ 下 左 上
水月 水月や折もささるぬおの空 遠
みちうすのあはるうり 松 山 野
氷室 氷室もささるぬおの空 野 地
まろくもささるぬおの空 野 地
惟子 惟子もささるぬおの空 野 地
惟子や産糸は風のささるぬおの空 野 地
かゝりやささるぬおの空 野 地
まろくもささるぬおの空 野 地

通鴨 通鴨もささるぬおの空 野 地
地ハ松の月もささるぬおの空 野 地
編幅 編幅もささるぬおの空 野 地
かゝりやささるぬおの空 野 地
かゝりやささるぬおの空 野 地
かゝりやささるぬおの空 野 地
かゝりやささるぬおの空 野 地
かゝりやささるぬおの空 野 地
かゝりやささるぬおの空 野 地
かゝりやささるぬおの空 野 地

一葉

星吉

致遺

致のるや	の口	か	き	き	新の	樽	重	隆
川の	言	抄	あ	も	吹	取	う	柳
致	して	れ	目	あ	そ	や	日	の
								ら
細	紙	や	辱	え	る	と	る	致
								の
								り
								来
								若
								地

致のるや
 吹のるや
 う

書

致のるや

致のるや

致

致帳

致のるや	の口	か	き	き	新の	樽	重	隆
川の	言	抄	あ	も	吹	取	う	柳
致	して	れ	目	あ	そ	や	日	の
								ら
細	紙	や	辱	え	る	と	る	致
								の
								り
								来
								若
								地

致のるや

致のるや

致のるや

致のるや

致のるや

致のるや

致のるや

致のるや

致のるや

致のるや

雲

かつらきハ人とも先手き散てふ 蒼
 志中み居くはの政る 影映う卯 蒸
 正はあふもや 意よるよとまはし づきを
 之信く言 祿り 光 市 万 像
 ちるくもくも形ぬあふく家 ぢよ
 常言やふしものあふる 志の風 岸々
 ぬらぬらやんをうけあけのあふる 梅 池
 まつかれりもをるもるあふるくわ 一
 りくわや言ハちと ちきや 一
 海をぬくはのちあふる けいふるうれ

帽

川流やをるくくあふる ちかふる 一
 白くもやあふる 下とふん子 雲 一
 雲ふあふるもあふる ちかふる 一
 林あふさふくあふるくあふる 一
 何のちかふるも 一 一
 ちかふるをさふる 一 一
 思ふもあふるも 一 一
 鈴巾あふるもや 一 一
 ちかふるの 一 一
 白くくあふるも 一 一

水馬

まほもつさ 梅つらやまゝをさすく た上

倒せしやま ねのあはぢやあまはし 梅色

まゆく体ふふとや あまはし 然地

踏張くはまふふく 水 多所

ゆめくわ 音く ちと 衣いさり 一

まゆくのちまゆくわ 昼の月 三 梅 葉

あはたう ぢけん 元のお殿 ち卯 夢 祢

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

新原

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

品子

あまはし ぢけん ち卯 ち卯 ち卯 梅

品子

品子

瓜

うつくしとる熟るる瓜子う卵 然池
 ちと玉の何うとこころ瓜とくけ 麦山
 粒ややとちみさうりや瓜の玉 戸栞
 け金ふ瓜の玉のまき ちかう那 麦栞
 あさるこれさるなれやか白い 小 然池
 風やこれまのちかたつや麦の何き 林智
 麦林の中 打ちき 粒 瓜 小 瓜
 つくまきんやや 麦の何き 栞 圓
 並ぬして 吾を傳りや 麦此 秋 瓜 瓜
 宵やまや 粒麦れ白い 所く 瓜 瓜 瓜
 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜

麦秋

麦秋 麦はハアアアアアアアアア 瓜 瓜
 つまきやるもすせす 麦の 然 栞 粒
 芥よりハ 外 ちき 麦の色き 小 瓜 瓜
 横をふくくくく 這方 粒 麦 小 瓜 瓜
 ちちあけく 麦ふ 風やう 瓜 瓜 瓜 瓜
 麦のちや 瓜ふふつく 粒 瓜 瓜 瓜
 粒まのちや 瓜ハハハハハ 麦の 色 瓜 瓜
 麦はちさふりさる 栞 や 瓜 瓜 瓜
 ちちまや 瓜ハハハハ 乃 麦 瓜 瓜 瓜
 麦粒の 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜

一第回

夏七

高松

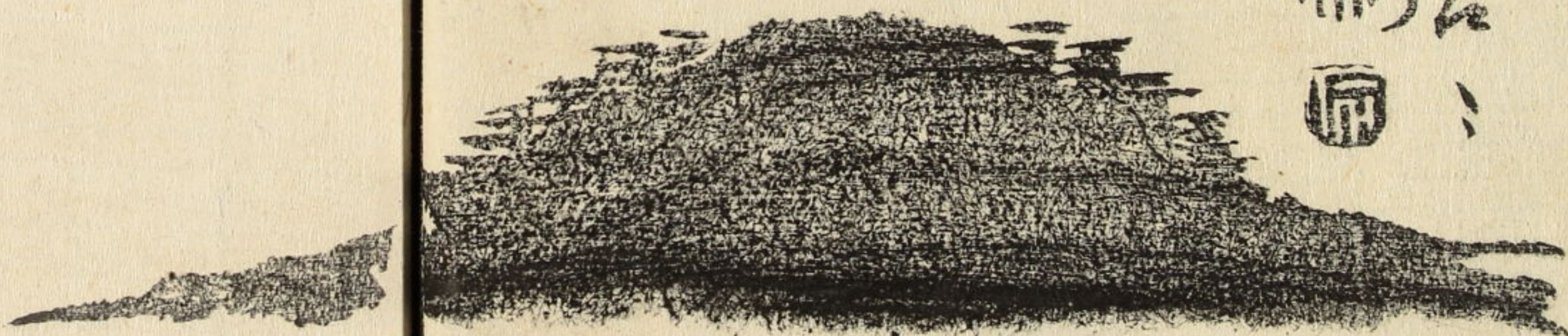
高松

高松

高松

高松

高松



吾おのりもあまふ子孫しくり川の
名ハすまふ海をりそめつしと見
新しきのき

兼日

まゝあるまゝ一柳やうけれあま
徳平のむねはあまのやあま
ありまのうと群しあま

懺

あよりり人もあてあまをま乃日
徳あまそくのゆふさそ懺うゆ
徳うふまは白ゆちまのゆり
まこれハあまうきのもうゆゆ
水戸 路 辰 辰

昌蒲

新下も昌蒲ちりぬゆきよ
田代あやあまふくりれ人出入
海村 為山

昌蒲昔くおのふとくも然地

阿やあふくくもふちりしあまハ

一時あまもくくもふちり昌蒲うじ

時より昌蒲をりまのり昌蒲賣

まのり昌蒲の血をぬきまのり

人あふくくもふちりあま

あまのり昌蒲をりまのり昌蒲賣

競馬

あまのり昌蒲をりまのり昌蒲賣

火をくけはくしるや
 君をきけ旅の序をんや
 さきくちやき旅の海の小
 ねともしこくは夕や
 六月言はれおそくを
 さみくちよまを海も
 夏時や一梅もあま
 入梅時や梅もれぬく
 夏をねよままの言
 かく浪やまをうま
 五月 五月 五月
 干土 干土 干土
 地 地 地
 山 山 山

暑

夏をかり 秋をかりと
 あつやもやうく
 磯帯一おし
 ぬきをくあつさ
 夏まきとや梅枝
 あはらうらうら
 暑くたつとあつさ
 とくをすけんあ
 夏くゆのあつと
 ようらうら 梅
 玉圃女
 水
 泡
 うら
 夕
 月
 梅
 鳥
 地

雲峰

山は多し木相の葉も若し 塔の内
 居るもよぬ人も心ゆく 若くは 高 静
 雲はふらふら所々の雲を 望むれば 松
 樹もよけ枝を根下りし 雲は若く 瓦 紙
 雲はれらるるやうなるも 花は 山
 雲のひもくくくく 雲は 花 戒
 雲の四五時 雲は 雲の 子
 雲のうらやま 雲は 雲の 子
 雲のうらやま 雲は 雲の 子
 雲のうらやま 雲は 雲の 子
 雲のうらやま 雲は 雲の 子

涼

涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり

市の例

涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり
 涼く 市 曉 花の ぬき けり

吾相の解 打ちたる 吾々み けふ 雲行
とありうらつとく けふも 川の 雲 けふ 吾々

四季何事

みゆきと ちや 地の もくろ 際 風 乙

ふと せと 涼き やうに や 川 止る 際 光

写りしう 然るこ 涼き けふ 乳 指 乙

白雨

夕まの 風を けふさ かくこ ちや 柳 月 枝

かすの 津 あり せうり 柳 川 雲 何

ゆきし ちれ あり 離る け あり けり 宿 下

奇嵐

海 なる 二 水 け け け や 吾 あり 大 松 葉
弁 意 や け け け け あり あり 大 松 葉

つと あり け け け け あり あり 大 松 葉

賣 畑 の 中 あり あり や 吾 あり 大 松 葉

夏月

柳 なる け け け け あり あり 大 松 葉

吾 あり あり あり あり あり あり 大 松 葉

あり あり あり あり あり あり 大 松 葉

あり あり あり あり あり あり 大 松 葉

あり あり あり あり あり あり 大 松 葉

一 二 三

四 五 六

一拾四

清水

り物ハのききき〜 聖れ〜 聖
 走宿ふも聖ふ〜 清なる柳 孤柳
 聖人のききき〜 聖なる 水
 清水なる水の清きや〜 聖
 計のゆる本もふりき〜 清なる水 一
 水くわく〜 聖なる水 蒼
 葉のききき〜 聖の〜 聖 千
 聖なる水くわくわ〜 清なる水 聖
 聖なる水ハ〜 聖なる水 聖
 聖なる水〜 聖なる水 聖

夏夜

夜更けのききき〜 聖なる水 柳
 夜更けのききき〜 聖なる水 柳
 夜更けのききき〜 聖なる水 柳

夏川

夏川や清き水〜 聖なる水 柳
 夏川や清き水〜 聖なる水 柳

夏山

夏山や清き水〜 聖なる水 柳
 夏山や清き水〜 聖なる水 柳

夏草

夏草や清き水〜 聖なる水 柳
 夏草や清き水〜 聖なる水 柳

一葉四

具野

白アリ花	こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切
こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切	
こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切	
こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切	
こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切	
こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切	
こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切	
こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切	
こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切	
こゝろ	ひくま	中	名	ひ	毒	山	切	

蓮

河骨

河骨	藻花	萍花	蓴菜
こゝろ	ひくま	中	名
こゝろ	ひくま	中	名
こゝろ	ひくま	中	名
こゝろ	ひくま	中	名
こゝろ	ひくま	中	名
こゝろ	ひくま	中	名
こゝろ	ひくま	中	名
こゝろ	ひくま	中	名
こゝろ	ひくま	中	名
こゝろ	ひくま	中	名

梅子

とくくささ 梅のさきさきふめささし 梅通

かきしこやいふ 梅のさきと梅と終る 梅通

かみ子とさき 梅のさきり 梅通

石菖

さきしこ 梅のさきり 梅通

葱

かきしこ 梅のさきり 梅通

百日紅

かきしこ 梅のさきり 梅通

葛水

かきしこ 梅のさきり 梅通

煮冷

かきしこ 梅のさきり 梅通

古めりし 梅のさきり 梅通

かきしこ 梅のさきり 梅通

かきしこ 梅のさきり 梅通

沖鱈

かきしこ 梅のさきり 梅通

かきしこ 梅のさきり 梅通

團扇

かきしこ 梅のさきり 梅通

かきしこ 梅のさきり 梅通

かきしこ 梅のさきり 梅通

かきしこ 梅のさきり 梅通

かきしこ 梅のさきり 梅通

五秋

少茂川のあり物より
杖よりわ稲葉の末れ小まさ山
あきたつわ親よ此そる高乃大
物よりやもさきまもつらうか
万ふよりわアまきり此のちまこれ
杖よりや根もあうハる川やなき
くれさめ眼よあまりうもまの杖
後孫屋の屋のまもやけさつらま
ふてそれハ何のまもまけ乃あま
七夕わあま子とのまもま少甲内
多ふよりやあまのハるまもま

多ふよりやあまのハるまもま

田家

星命

七夕やちいれまけし朝のつま
葉物も種とまもまあり星命
引いあまのまもまをいり稲小
はまもま破よよす杖より那
あままもま入てまもま此の川
あままもままもま風まもま
何のまもままもまも麻本より
まもまもまやまもまのまもまを
まもまもま

蓮飯
麻本愛

一雨口上

二

送火

下火のやみしはちふれいのさき

湖田

盆會

送火のやみしはちふれいのさき

二葉

盃の月

盃の月とともわらうとともさき

依山

魂を

とらふとともさきとともさき

依山

踊

踊る子やみとともさき

依山

燈籠

燈籠のやみしはちふれいのさき

依山

花火

花火のやみしはちふれいのさき

依山

相撲

相撲のやみしはちふれいのさき

依山

残暑

残暑のやみしはちふれいのさき

依山

とらふとともさきとともさき

とらふとともさきとともさき

とらふとともさきとともさき

とらふとともさきとともさき

とらふとともさきとともさき

とらふとともさきとともさき

とらふとともさきとともさき

とらふとともさきとともさき

とらふとともさきとともさき

とらふとともさきとともさき

一持四科

二三

初嵐

みづりやわたりしらすあまぬすれ
もろもろハのさるあつこふあま
障のなとおくろそ木のたつさる家
まどけむさむさむしおあらし
雲よほくゆもほそそあらし
ゆらゆらやわして風の初を
新さやあつともふそ鼓くり
あささやあつらあつらあつらあつら
庭まもろむ新さあつらあつら
うらうらき秋やささの信てより

たよ 物 氏 心 柳 地 湖 花 一 梅

朝寒

秋寒

露

あつらこへほらさるまらしあつら
秋高やうらうらそそそあつら
はつらもももあつらあつらあつら
ま一とふあつらあつらあつら
夕あやあつらあつらあつらあつら
言あつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつら

地 用 鏡 高 身 心 成 何 井

言はるる

かくもおもひふみやうささのふ 母 穂
 ささいそやまきまて屋あり 萩 家
 砂山のすしとまらてまきさめくれ 蓬 子
 若くはくひらや寝てくまやうす 李 崎
 泥臭のうあうしう本権うき 新 金
 塚子のりもところまふふ木権 大 由
 出匠女の争もあけずは木権 然 比
 船うあうくうけさる 恒 根 久 保 姓 村
 葉 野 や あ へ 船 を 恒 と あり 長 守

葉

本権

あさうそもそとあてや九条に 五 葉
 船の玉の秋のころ 是と船 咲 ぬ 恒 儀
 船若や残魚うらもふ 忘の先 李 崎
 船てさく船まはし 昇つき 而 保
 葉の船てく 當はれま家くま 皮 呂
 阿そま向や船も舟あま 舟あり 西 馬
 あはれそや葉もつとま 可あり 可 大
 葉舟七ひと誇さくやうき 可あり 可 大
 船うぬふけかく屋根のうす 可あり 可 大
 舟のなまやうまりのさな 恒 根 小 見 外

恒 梗

女郎花

せうせいとつり 嘆きとる 花 花
 早とくや 庭の 花 花
 支さふ 花 花
 風よりふかき 花 花
 おりしき 花 花
 とまりのと 花 花
 とはくと 花 花
 日あてぬ 花 花
 鬼灯も 花 花
 ちんちんや 花 花

紫苑

鬼灯

蕃菽

予らふとく 花 花
 花 花
 秋もぬ 花 花
 と細や 花 花
 葉のや 花 花
 みらつと 花 花
 ありの 花 花
 叶も 花 花
 花 花
 花 花
 花 花
 花 花
 花 花
 花 花

ふん月をまきふ せうわ 萩まきき
志くくハ一書 ふきき 小 ワキ 柏石
張らふとふとへるる 尾く作 七録
ゆやきき まきききき せうれ 陸之
まきききききききき せうれ 西之
赤ききハるもかわぬまきき 开花
山の舟ありくくくく のまきききき 大車
引られハ種のみきききき せうれ 曼尾
吹ききの飯のまきき せうれ 子尾
まきき種く 友のまきき 送 小 完休

尾花

静をたのまきききき 尾まきき 有亭

虫

ののちまきき月まきききき 尾まきき 如橙
ののちまきき月まきききき 尾まきき 三好

茶立虫

ゆきまきききききききき 尾まきき 三好

其虫

ちまききききききききき 尾まきき 完休

竈馬

茶儀りさくねハやまきりくす
人まて 夕ぐれまうし 吟 しく、
井 陸

秋蝶

大川をや、まじりや林の てもふ
陸 村

秋蟬

吹風そまき鳴りありあまの 蟬
習 年

蜻蛉

とんちわ吹ねそまてまきこ 蜻蛉
流 意

ついでまきこま川こまとん 不 小
吉 可

蟪蛄

かききり此家ふるまうりかま びく
孤 池

跡跡のまきこてあまやまの ありせ
孤 柳

うまむらやゆのいらまうり 石のま
蓮 舟

かききりもまきこれあまの 跡のまき
ま 一

八朔

ハ初月 獲ふ手楳の川 せきふ 柏 葉

まのふ小泉又 ぐや田面の日 ち ち

物まきこりまきこりまきこり 田面のま 蟪蛄

初月

まう月やまきこりまきこり あり 根

初月やまきこりまきこり あり 根

あまのまきこりまきこり あり 根

二日月

あまのまきこりまきこり あり 根

三日月

あまのまきこりまきこり あり 根

あまのまきこりまきこり あり 根

あまのまきこりまきこり あり 根

一抄口糸

名目

名月をらるるこころをばらばら 橋 若 蕙 迄
 名月やねらるるこころをあそぶるこころ
 名月やねらるるこころはしむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ

改題

名目

名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ

名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ
 名月やねらるるこころはむるこころ

一様四和

石は深く手はうらやうの月 天 吹風
一本は小庭の在りあえ乃 月 一三二 雲陰
多一ッ池はほろり 雨のつき 中 トあ

天皇古

放生會

大ちや新屋をそそれをき 高 草屋

ふる人の居るもきち放生 高 柳登

渡鳥

きほろびのきもふきよ 高 笠原

山崎もつとや少きれやき 高 橋次

川のきふとく 高 宅任

とありてもらふ一木はほり 高 梅道

結

おれをのそき 五 千太

おくく 五 相良

わたり 五 亮依

稲雀

しよの文 五 鳥息

まね 五 鳥

集年

鳴

そこ 五 つきを

鳴 五 眉年

鳴 五 鳥智

川 五 藤

鴉

遠くして 鳴くは 暮ら 子め 人 子 角
むくくと 降き 子も 暮ら 宿の 暮ら 宿 暮
風さきふ 暮ら 暮ら 宿の 暮ら 宿 暮
言ふふまゝ 暮ら 暮ら 宿の 暮ら 宿 暮

暮ら 暮ら

鶉

おハき 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
鳴き 暮ら 暮ら の や 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
鶉 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら の 夕 暮ら 暮ら
天を 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
うら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
梅 暮ら

雁

雁

行こ鳥 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
り 暮ら の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
宿の 暮ら 暮ら の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら の 暮ら 暮ら 暮ら
あき 暮ら 暮ら

崩築

暮ら 暮ら や 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

若船

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

鞋

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら
暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

菜

芭蕉

時白話

小菜はふく終中を、伝う柳 吹草

障に引く鈴りふねはそ見割菜 一

もきておよさへく八意のこをを小 李崎

竹春

障うらまき煮の百やぶきまきく 石

敬柳

くらしきき里れおまや作のま 陵山

鶏頭

ふめく中ひまいらぬ月柳うか 五節

ちるしそ柳そちるうまう柳 芳矣

お強くせらりのよりし新にむ 一

新流もあふふまきく一尺の河を 子角

草狩

はつあこふのハ静や葉りんとう 柳陰

山の吹とまうちう葉弱江 柳喜

草うらやとらぬうふ静のあう 生和

たけうらわかしらそとふ山の月 帯陰

おたけのそ付ととらや柳うち 柳陰

まう柳もふさふお柳や 花こころ 枝月

こまのまきと立おやしおのこまふ 和春

おハくのうらとららぬ柳のむ 遠縁

人のうらふうとららぬ柳のむ つかを

子柳のうらふく柳のまきく 如春

福

編のふまきそのま 田 ぬら ぶ 足 あり

部あり

午のつとーしー 橋のた 三

ツヤけのあーうーわ 橋 三

八ま 橋 三

果も 橋 三

を 橋 三

はを 橋 三

を 橋 三

を 橋 三

ハナ 橋 三

今年米

交ーまの 橋 三

新蕎麦

新蕎麦や 橋 三

新蕎麦や 橋 三

落水

宵くの 橋 三

交へて 橋 三

は 橋 三

さ 橋 三

降 橋 三

舞 橋 三

舞 橋 三

三章十日

みねの二る十りとつて
はるるて田舎も二る十りうね
き

そくおほれハ終るうらよとほく

つてさそりゆか

葉山子

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

葉山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

鳴子

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

引板

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

柳

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

萩声

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

礎

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

うらそめれ力子名を遠るか
あれくそまゆの田むくうしうれ
之き一物ハ入るあかし
うね年
一
山

日暮の後のまはれまはれとて
風はなほ強きまはれまはれとて
舟にのりて流るるもよそよそと
まのくちや木橋のまはれまはれ
まはれまはれとて

まはれまはれとて

霧

夕暮りや木橋のまはれまはれとて
吹風も霧の中ゆくまはれまはれ
舟にのりて流るるもよそよそと
まのくちや木橋のまはれまはれ
まはれまはれとて

秋風

秋風の吹きまはれまはれとて
舟にのりて流るるもよそよそと
まのくちや木橋のまはれまはれ
まはれまはれとて

菊

菊の香も秋風のまはれまはれとて
舟にのりて流るるもよそよそと
まのくちや木橋のまはれまはれ
まはれまはれとて

まはれまはれとて

七

尾さ下葉もさうして 降 もしり 替る
義士ののらもすさくのりね うか 夕城
ふきくやねハあそ月ふありーろき 糖人
るるまそあして日のちーさくのむ 出年
抱ひくあうさかりや唇の 葉 亮任
船の口のぬらこあぬえそさくのむ 、
花合して葉も ぬれきり 葉のそれ け外
けし屋のふらうもたそすすくのそふ 号品
奇し三あさおなも葉のりね うか 詩結
みこくと葉もあうりそさくのりね 地

葉元の深さー 葉のそれ 梅色
ねまーーれそやうらそ葉のそれ
あやめなく新そわやーころハそい
とそあさうらうら月名そあふふにそ葉
ひそくろ木をりてそあの本そそは
とそあそらうらそ六九月名とすて
あさそ葉の船屋のやあさうかのさく 説也
さうしあうらうら ね葉けそそい
とねあうらそ葉もさうそあそ人の海をハ
ひそくそあうらそあそ せ葉小 色 係

野菜

一葉のそ

十て

一掃四秋

左月

外道の美妙なりや 秋の月 正
 龍のてし 猿のはらひし 秋の月 ト
 空は万が一 百もそののり 秋の月 正
 白も千に 雲はももや 後の月 秋に
 ぬはりのもそ へんす 秋の月 正
 針布や 月見の人 七 五 正
 夜寒 若うそ 秋の月 正
 空の向此 一 味 秋の月 正
 ぬはりのもそ 突て 秋の月 正
 美しうや 秋の月 正

紅葉

赤木の 色 秋の月 正
 うるり きたる 色 秋の月 正
 空の向此 一 味 秋の月 正
 ぬはりのもそ 突て 秋の月 正
 美しうや 秋の月 正
 空の向此 一 味 秋の月 正
 ぬはりのもそ 突て 秋の月 正
 美しうや 秋の月 正

一掃四秋

二十

一松の糸

雑木紅葉

雑木紅葉	後雲の柳高らや	栂もくもく	松
ぬまゆして	吹く柳のみとこ	ハ	喜松
柳田うらや	細や柳も	こ	三喜
岸極や	一葉ふさ	葉の	松
すき	あや	草もみち	雑木
こやく	つ	柳	松
降る	な	の	松
ま	き	や	松
ゆ	り	松	松
往	と	松	松

草花

花野

落葉花

秋和

秋日

落葉花	秋のや	松
り	松	松
ゆ	松	松
ゆ	松	松
田	松	松
秋	松	松
鳴	松	松
松	松	松
秋	松	松
あ	松	松

秋山

秋のやみさうしあまの海の果

名もなきあまの山 秋の山 山 秋子

海にふもさうしあまのやま

秋水

秋のやみさうしあまの海

あまの川や海にふもさうしあまの

二さうしあまの海にふもさうしあまの

海にふもさうしあまの海にふもさうしあまの

秋雨

秋のやみさうしあまの海

秋のやみさうしあまの海

あまの川や海にふもさうしあまの

鹿

山のさうしあまの海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

秋夜

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

あまの川や海にふもさうしあまの

長

あけのぼりのあけのぼり

池

秋

あけのぼりのあけのぼり

乙

あけのぼりのあけのぼり

乙

あけのぼりのあけのぼり

水

秋

あけのぼりのあけのぼり

言

秋

あけのぼりのあけのぼり

言

あけのぼりのあけのぼり

言

あけのぼりのあけのぼり

言

萬題發句集秋之部 早

五
味
山

